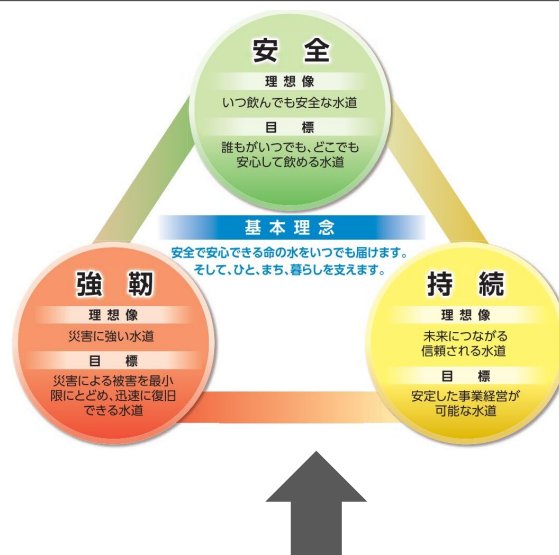


## 入間市新水道ビジョン

平成29年3月に「入間市水道ビジョン」を改定し、国の新水道ビジョンの「安全」「強靱」「持続」の3つの観点から、50年先を見据え、水道事業の現状と将来の見通しを分析、評価し、今後の10年間の水道事業の方向性を示すもの

### 基本理念

安全で安心できる命の水をいつでも届けます。  
そして、ひと、まち、暮らしを支えます。



『入間市新水道事ビジョン』で挙げた将来目標に対して、実績値を比較して水道事業の進捗状況を把握

## 安全

いつ飲んでも  
安全な水道

### 【安全】誰もがいつでも、どこでも安心して飲める水道

主な施策	主な実施状況
水安全計画の策定	水質検査の実施(毎年) H30年2月に水安全計画を策定
流域関係者との連絡体制の構築	入間川流域利水者連絡会の開催
環境に配慮した事業活動の推進	紙の使用量の削減、管路更新に伴う漏水防止
自己水割合の維持	自己水源保有率20%の維持
貯水槽水道の適正管理	ホームページによる掲載や窓口対応
給水装置の適正管理	ホームページによる掲載や窓口対応

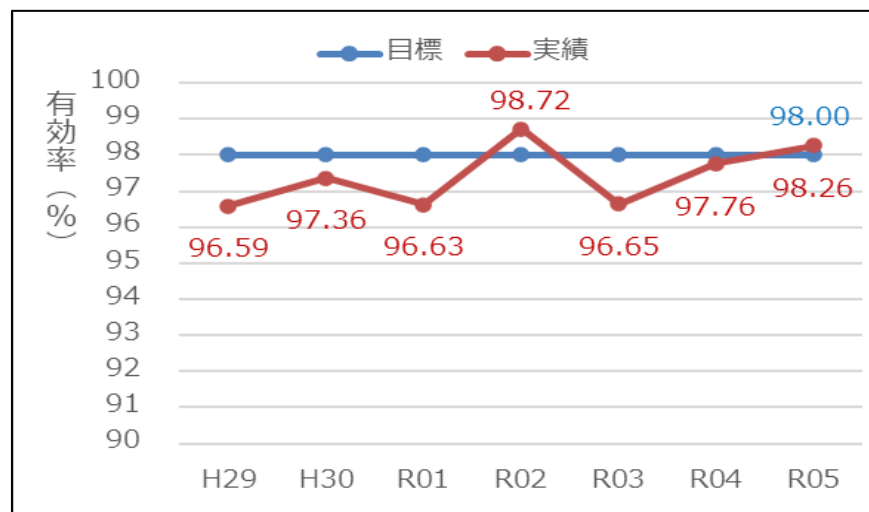
○ ビジョンの計画どおり実施している。

強 靱

災害に強い水道

【強靱】災害による被害を最小限にとどめ、迅速に復旧できる水道

主な施策	主な実施状況
施設の適正な維持管理	漏水調査の実施 令和5年度有効率98.3% 消火栓や空気弁の点検

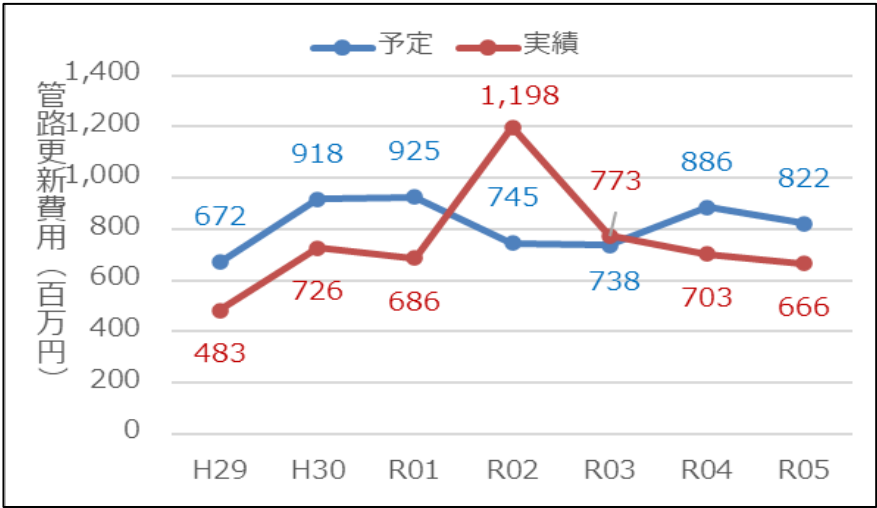
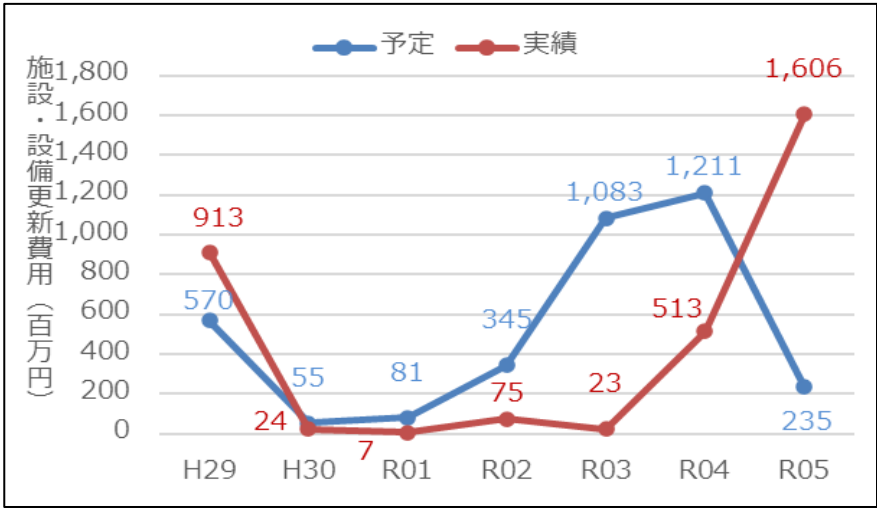


○ 有効率は目標値の98%に近く、目標値を概ね維持している。



【強靱】災害による被害を最小限にとどめ、迅速に復旧できる水道

主な施策	主な実施状況
計画的な施設の更新	H29：寺竹配水場更新 R5：西武第1配水池更新 老朽管の更新

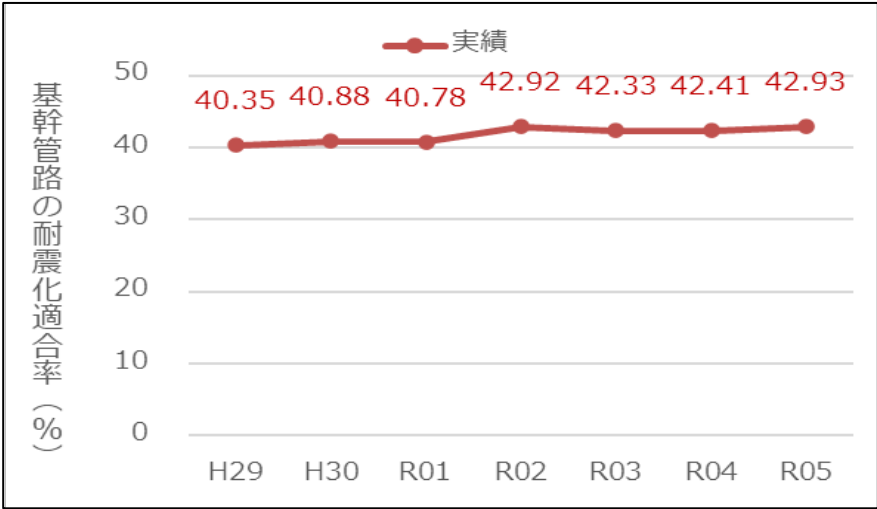


○ 投資は概ね予定通り。繰越事業に伴い年度間のずれが生じている。



【強靱】災害による被害を最小限にとどめ、迅速に復旧できる水道

主な施策	主な実施状況
送水管の更新と管路の耐震化	寺竹送水管 鍵山東金子線送水管



○ 送水管の更新を計画通りに実施し、基幹管路の耐震適合率は向上している。

**強 靱**

災害に強い水道

**【強靱】災害による被害を最小限にとどめ、迅速に復旧できる水道**

主な施策	主な実施状況
応急給水体制の充実	応急給水所の周知（上下水道トピックス） 災害備蓄用のペットボトルの購入
近隣事業者や民間事業者との災害時の連絡の確保	応急復旧資材の賃借契約の締結 近隣水道事業者との緊急連絡管の接続に向けた協議 所沢市、飯能市、狭山市、日高市との4市合同 防災訓練の実施日本水道協会主催の情報伝 達訓練に参加 平成31年3月に事業継続計画（BCP）を策定

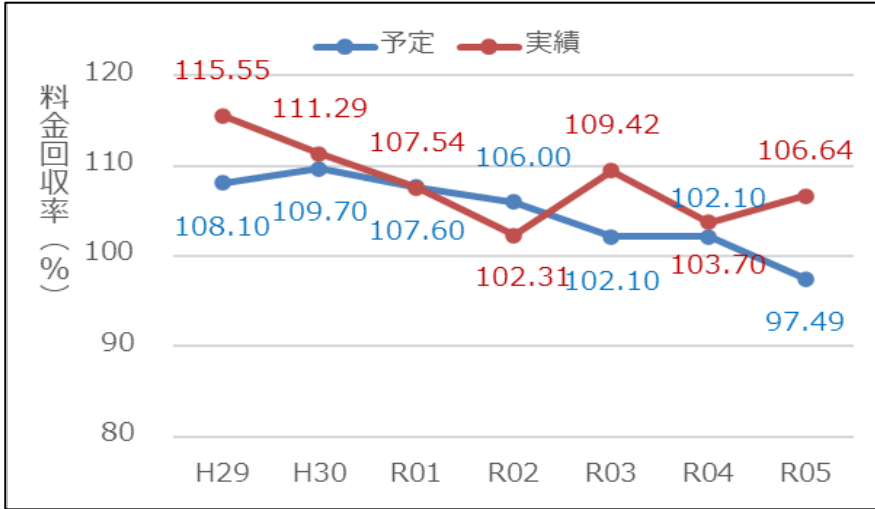
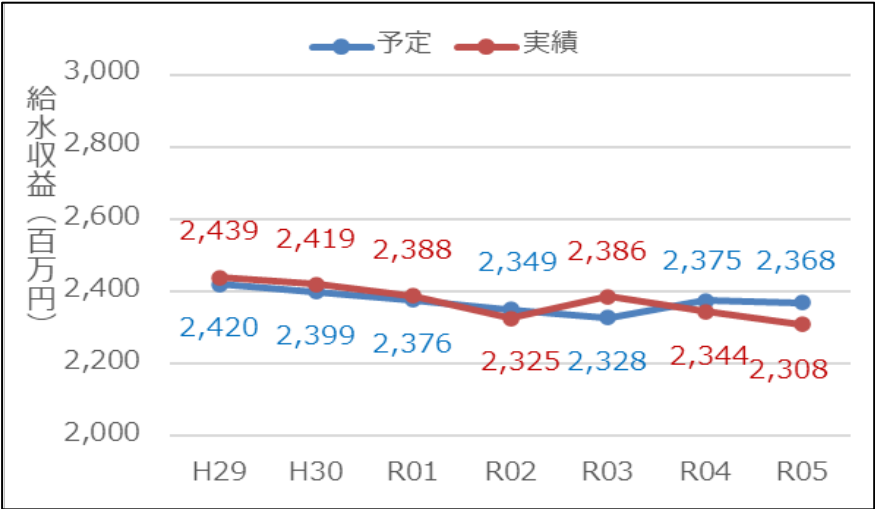
〇ビジョンの計画どおり実施している。

持続

未来につながる  
信頼される水道

【持続】安定した事業経営が可能な水道

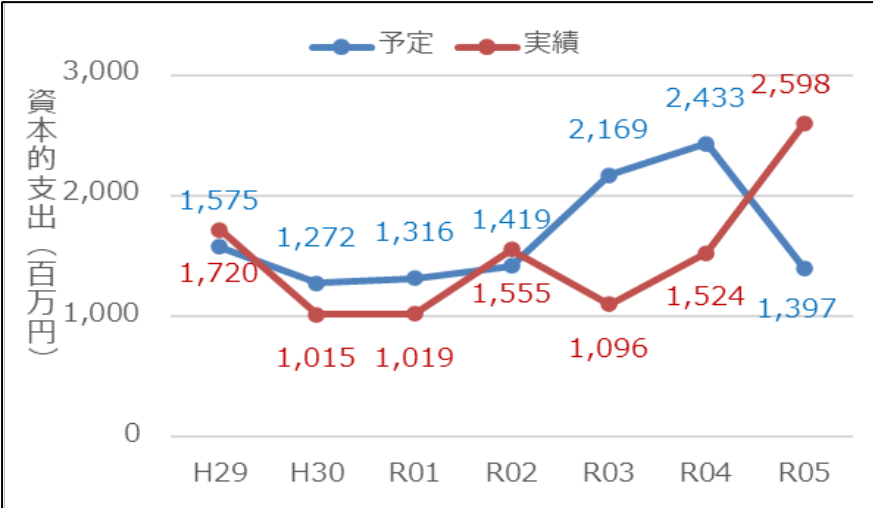
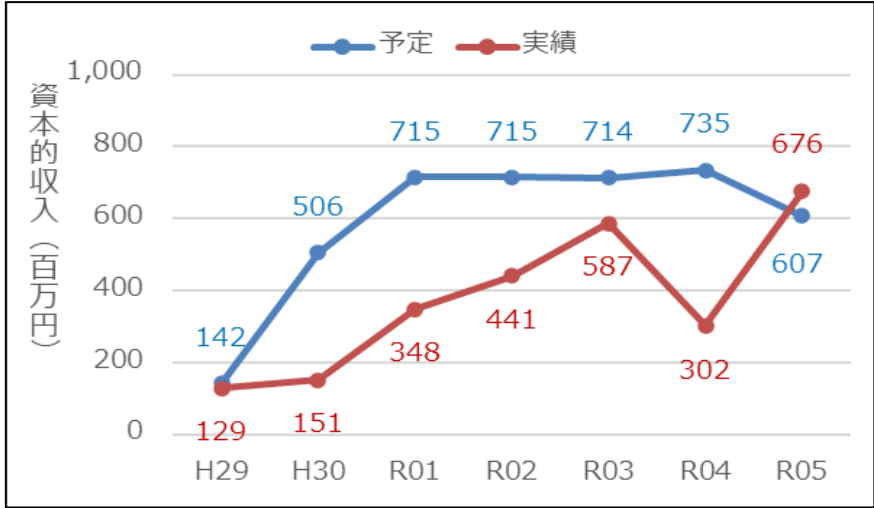
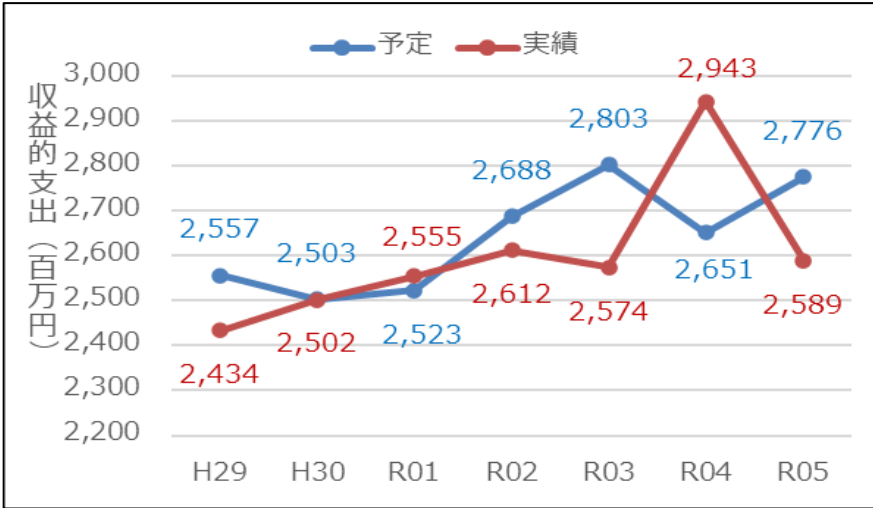
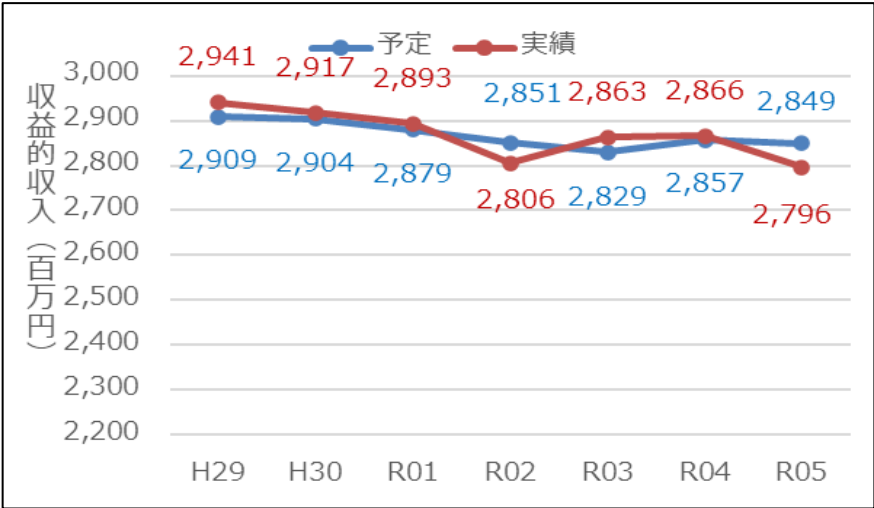
主な施策	主な実施状況
中長期的な視点での経営戦略	投資計画・財政計画のバランスのとれた事業運営を行っている



○給水収益の実績は予定額とほぼ同程度。  
料金回収率は100%以上を維持しており、独立採算で経営している。

収支

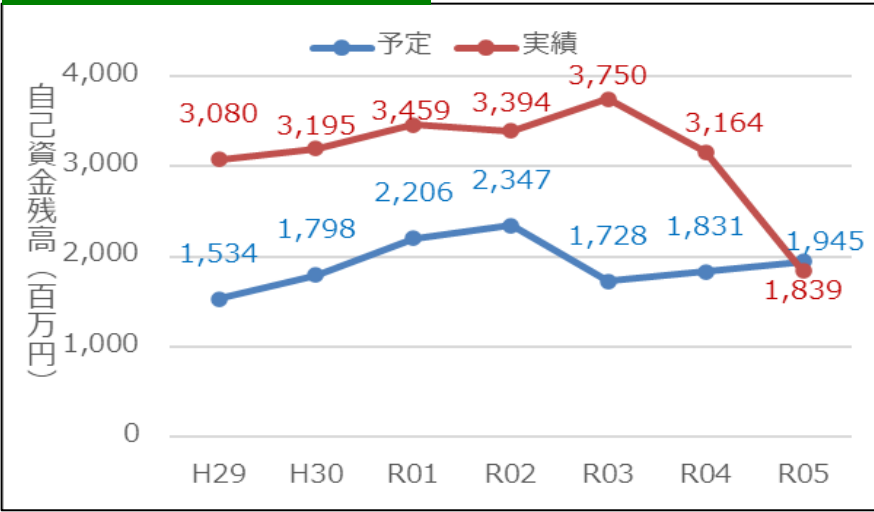
収益的収入の実績は予定額とほぼ同程度であり、支出は年度によって異なる。  
資本的収入の実績は予定額を下振れ、支出は年度によって異なる。





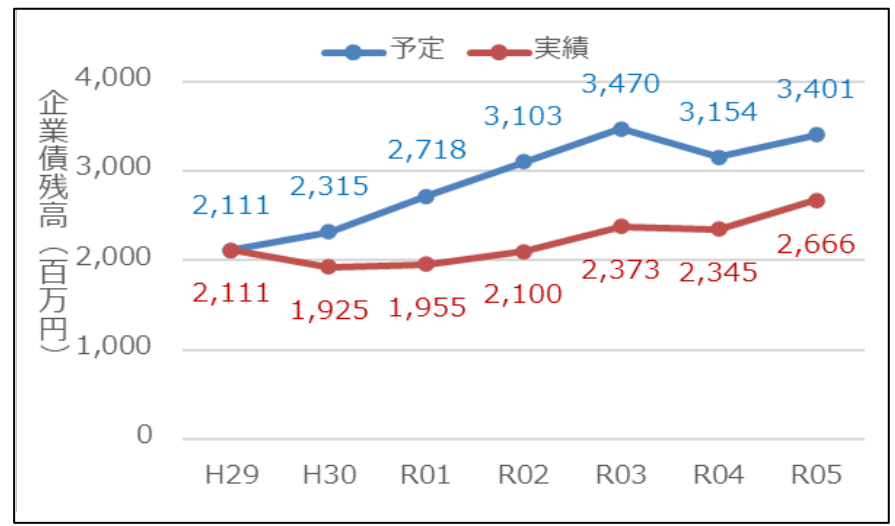
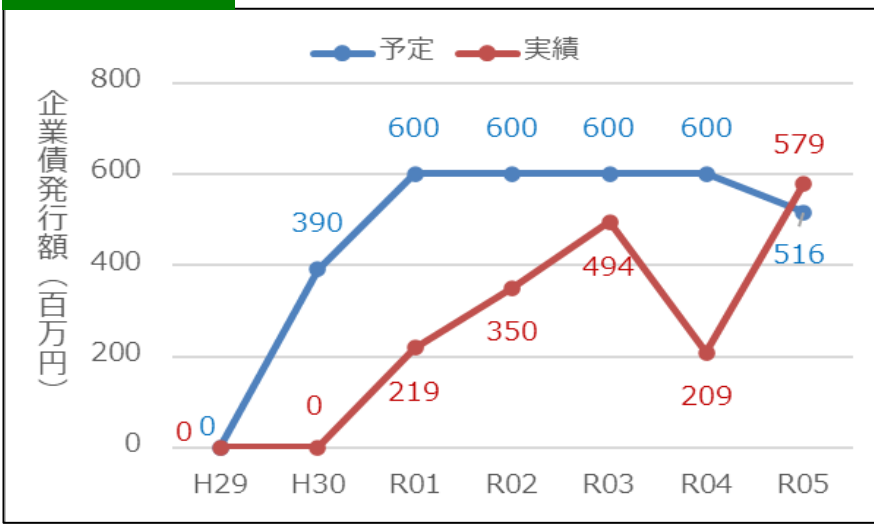
自己資金残高

自己資金残高は予定額とほぼ同程度である。



企業債

R4までの新規発行額は予定より下振れ、企業債残高は予定よりも下回る。

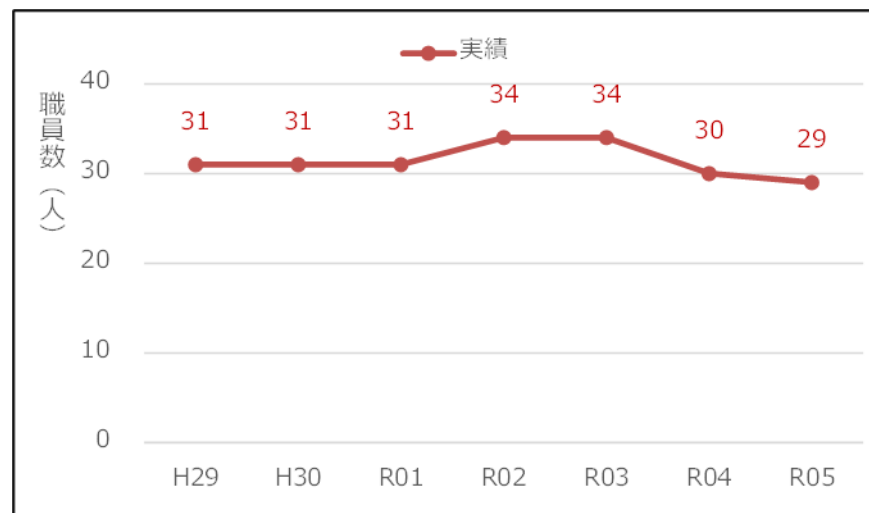


持続

未来につながる  
信頼される水道

## 【持続】安定した事業経営が可能な水道

主な施策	主な実施状況
事業推進に向けた人員の確保	職員の確保に努めている
職員の意識改革と計画的な人材	研修の参加やOJTによる技術継承に努めている



〇ビジョンの計画どおり実施している。

## 予定通りの内容

- ・投資計画は概ね予定通りに実施している。
- ・財政計画は概ね予定通りに実施し、  
経営的には独立採算による経営で純利益を確保している。
- ・企業債残高は、予定よりも下回っているが増加傾向である。

## 今後の課題

- ・令和8年度から有機フッ素化合物PFOS・PFOA※が水道水の水質基準となるため、更なる水質管理の徹底を図る必要がある。
- ・令和6年の能登半島地震の教訓に伴い、避難所等の重要施設に接続する管路については、耐震化を推進する必要がある。
- ・老朽化した管路の更新を行うための財源の確保、人材の確保が必要不可欠である。
- ・人口減少に伴い給水収益は減少傾向で推移していることから、人口減少に左右されない料金水準や体系について検討する必要がある。

※鍵山浄水場の原水・県水（浄水受水）の水質検査結果は、暫定目標値以下。なお、鍵山浄水場は活性炭処理設備を保有している。

経営比較分析表を用いた経営分析

各公営企業が経営指標を活用して、現状・課題等を的確に把握することを目指す。毎年度策定及び公表が要請されているもの。過去5年分の指標の推移を活用した自己評価、他団体との相対評価が可能。

経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県 入間市

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	87.89	99.99	2,420	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
144,723	44.69	3,238.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
144,247	44.56	3,237.14

グラフ凡例

- 類似団体値（当団体の値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 令和5年度全国平均

分析値

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
・100%を超えており、財政的な健全性は高い。しかし、給水人口の減少や減価償却費等の増加に伴い、厳しい経営状況が懸念されることから、今後も継続して経営改善を図るほか、料金改定等の検討が必要である。
- ②流動比率  
・類似団体と比較すると下回っているが、全国平均を上回っており短期的な債務に対する支払能力は確保されている。
- ③企業債借入対給水収益比率  
・類似団体、全国平均を下回っているが、令和元年度から毎年新規借入を行っており、今後の企業債の活用を予定しているため、比率の増加が予想される。
- ④料金回収率  
・100%を超え、類似団体、全国平均を上回っており、給水に係る費用は水道料金のみで賄われている。また、給水原価は減少しているが、今後も給水収益の増収や費用の削減に取り組んでいく必要がある。
- ⑤給水原価  
・類似団体、全国平均を下回っているが、今後も経営の効率化等が給水原価の減に繋いでいく。
- ⑥施設利用率  
・類似団体、全国平均を上回り一定の水準を確保しているが、将来的には水管網にあった施設のダウンサイジングの検討が必要である。
- ⑦有収率  
・類似団体、全国平均を上回っているが、目標値として設定している96%より下回っており、引き続き漏水調査等の有収率向上対策に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率、管網経年率とも類似団体、全国平均を下回っている。当市においては、昭和40年代以前に布設された管網が下水道の普及に伴い、下水管の埋設や区画整理事業などに伴って更新され、老朽管が少なくないことが、有形固定資産減価償却率・管網経年率の平均値を下回る要因である。しかし、昭和45年に管内全域で水源地の指定、埼玉県下水道から給水の受入を開始したことにより、急速に伸びた昭和50年以降に布設された管網が10年以内法定耐用年数を超えるため、今後、管網経年率の上昇が予想される。
- 管網更新率は、繰越事業や複数年度にわたる繰越事業が終了した平成30年度をピークに年々下がっており、短期間化計画（老朽管更新計画）に基づいた更新ができており、今後も継続していく。

全体総括

経営の健全性・効率性については、類似団体、全国平均を上回り一定の水準を確保している。また、老朽化の状況については、今後も管網の長寿命化及び更新計画の平均化を図りながら計画的に更新することが必要である。そのため、施設更新計画とともに長期計画に立って財政計画を内容として策定した「入間市下水道ビジョン」に基づき、経営状況を把握し比率の改善に向けた検討を継続的に行うとともに効率的で安定した事業経営に努めていく。



指標	指標の意味
経常収支比率（％）	経常収支比率は、当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。
累積欠損金比率（％）	営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した欠損金のこと）の状況を表す指標である。
流動比率（％）	短期的な債務に対する支払能力を表す指標である。
企業債残高対事業規模比率（％）	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標である。
料金回収率（％）	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金水準等を評価することが可能である。
給水原価（円）	有収水量 1 m <sup>3</sup> 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。
施設利用率（％）	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。
有収率（％）	施設の稼動が収益につながっているかを判断する指標である。
有形固定資産減価償却率（％）	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示している。
管路経年化率（％）	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示している。
管路更新率（％）	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。

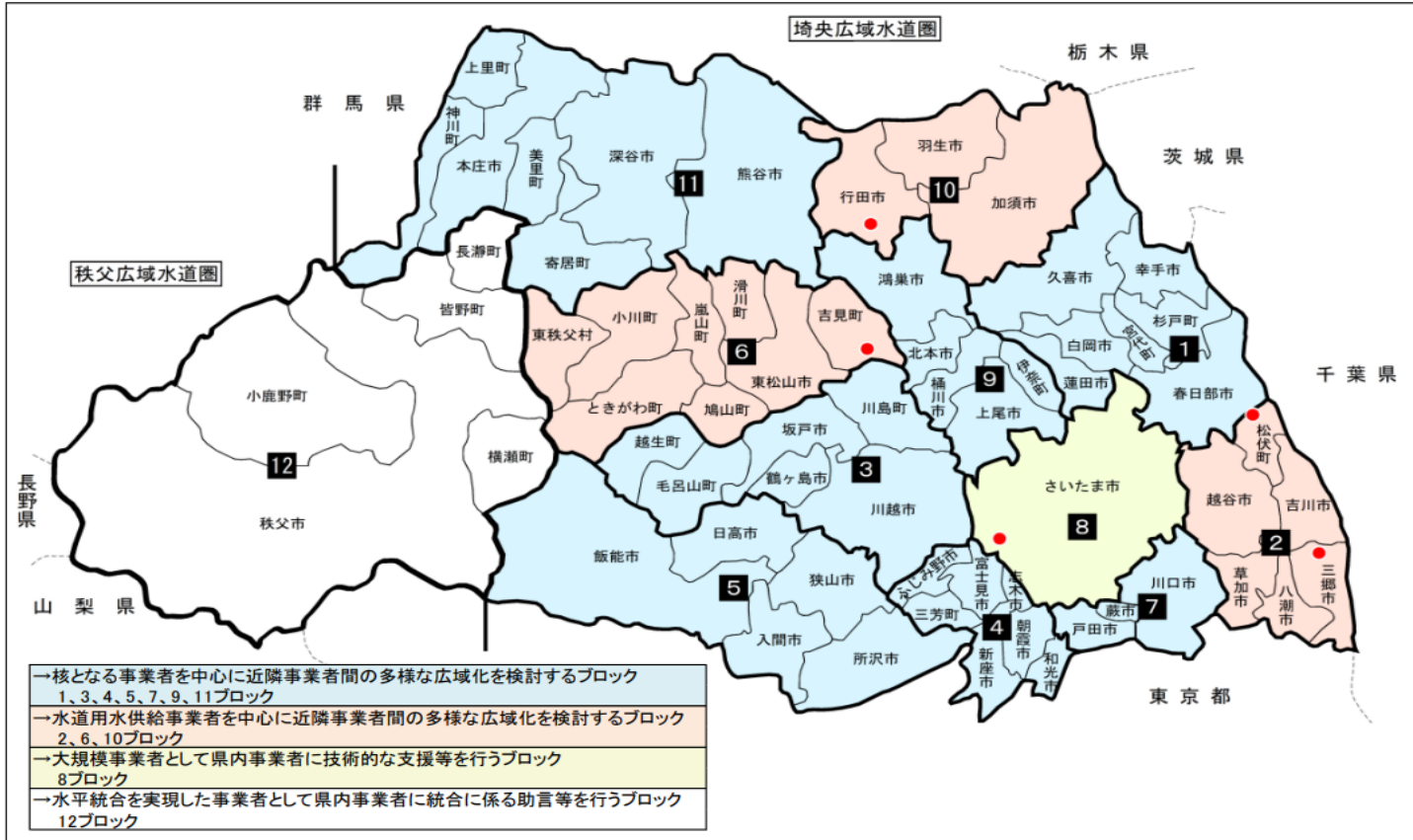
全国団体：水道事業を実施している1,296団体

類似団体：人口区分が類似した89団体

令和 5 年度「経営比較分析表」類似団体区分  
[上水道事業区分一覧表]

給水形態	現在給水人口規模	区分	団体数
末端給水事業	都道府県・指定都市	政令市等	20
	30 万人以上	A1	50
	15 万人以上30 万人未満	A2	72
	10 万人以上15 万人未満	A3	89
	5 万人以上10 万人未満	A4	188
	3 万人以上5 万人未満	A5	198
	1.5 万人以上3 万人未満	A6	247
	1 万人以上1.5 万人未満	A7	131
	5 千人以上1 万人未満	A8	190
	5 千人未満	A9	45
用水供給事業		B	66
		合計	1,296

近隣団体：広域化ブロック（県内12ブロック分割図）

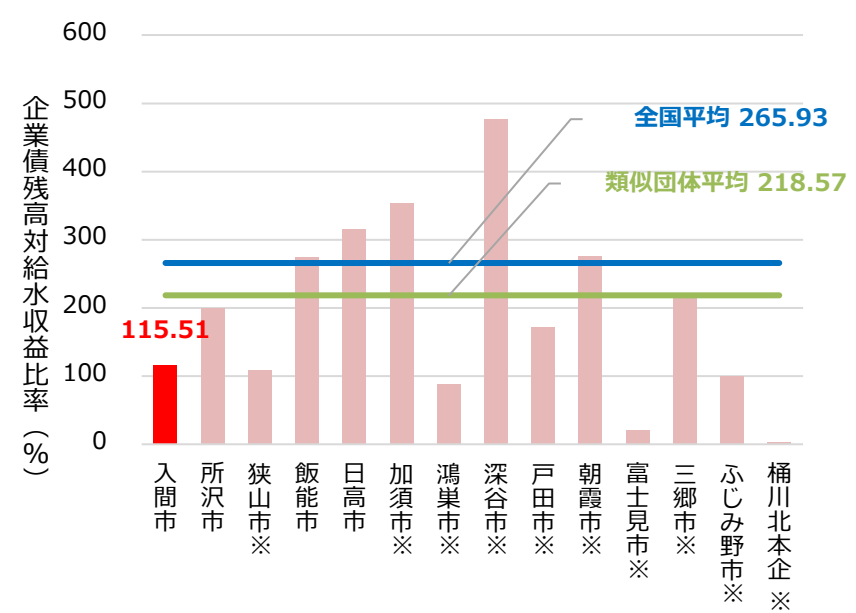
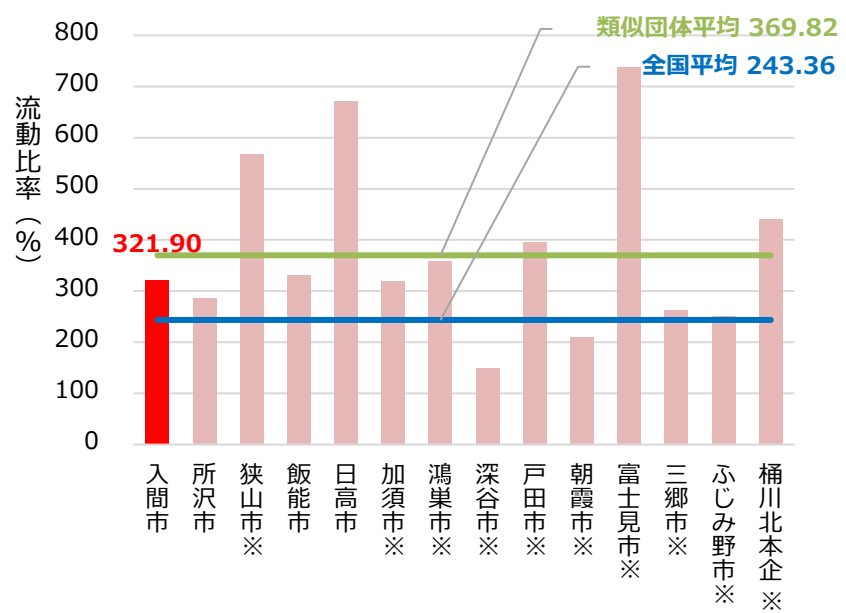
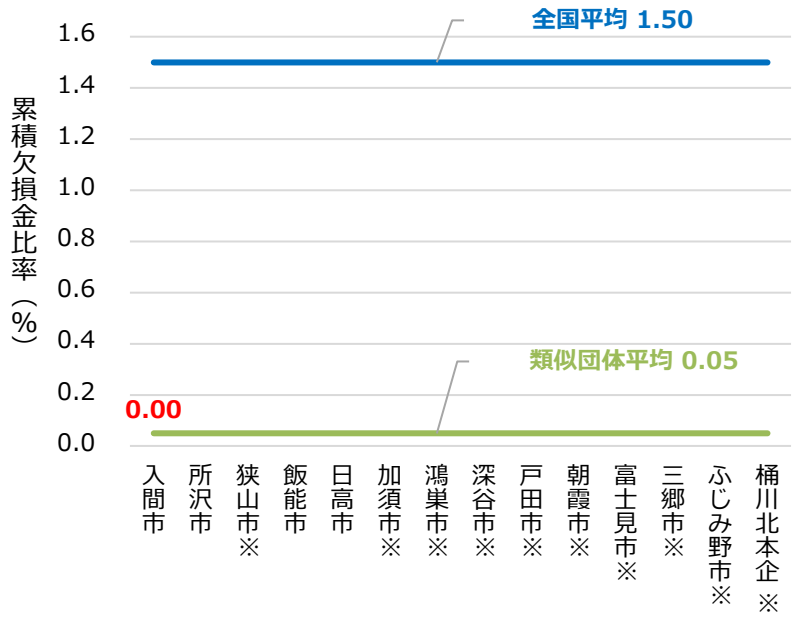
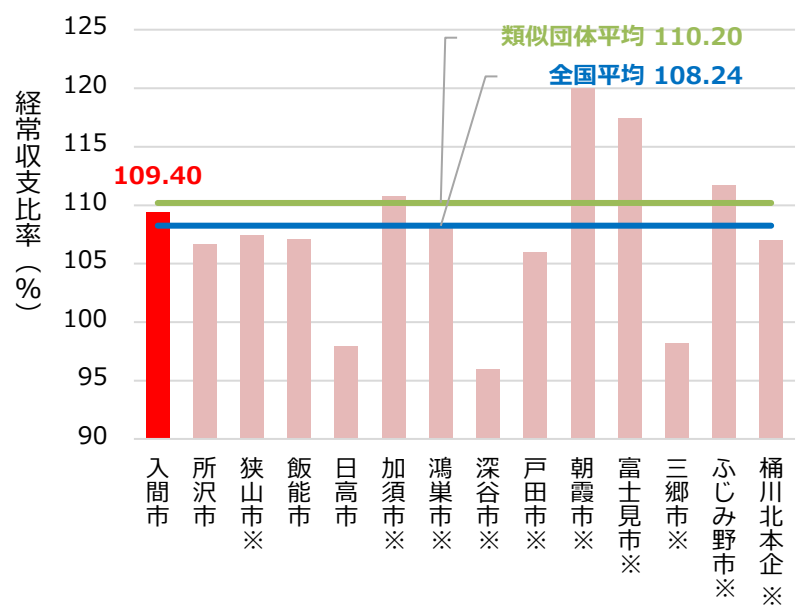


出典：「埼玉県水道整備基本構想～埼玉県水道ビジョン～」埼玉県 令和5年3月改定

5ブロック【5市】

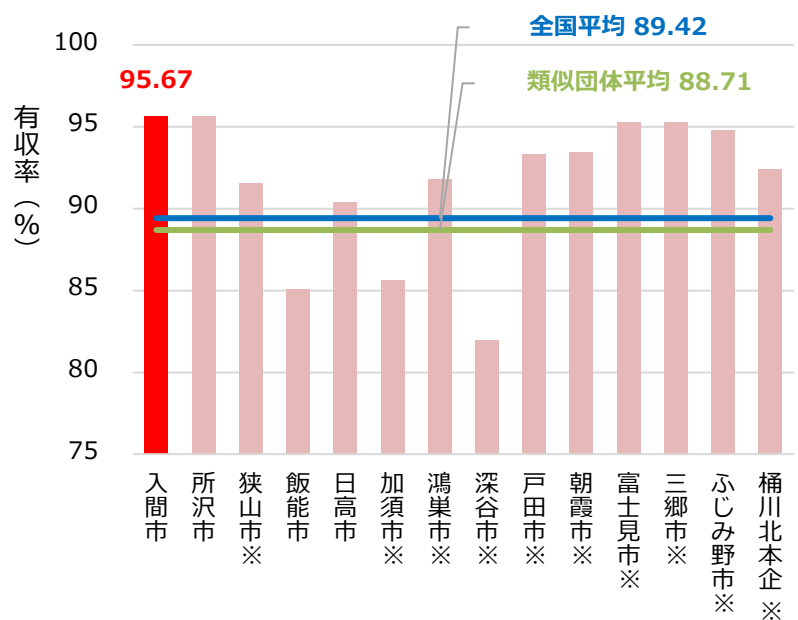
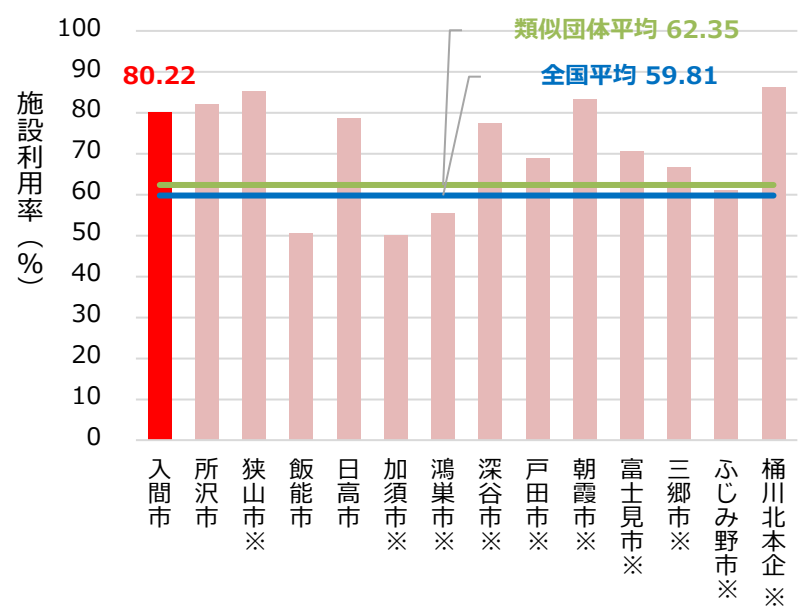
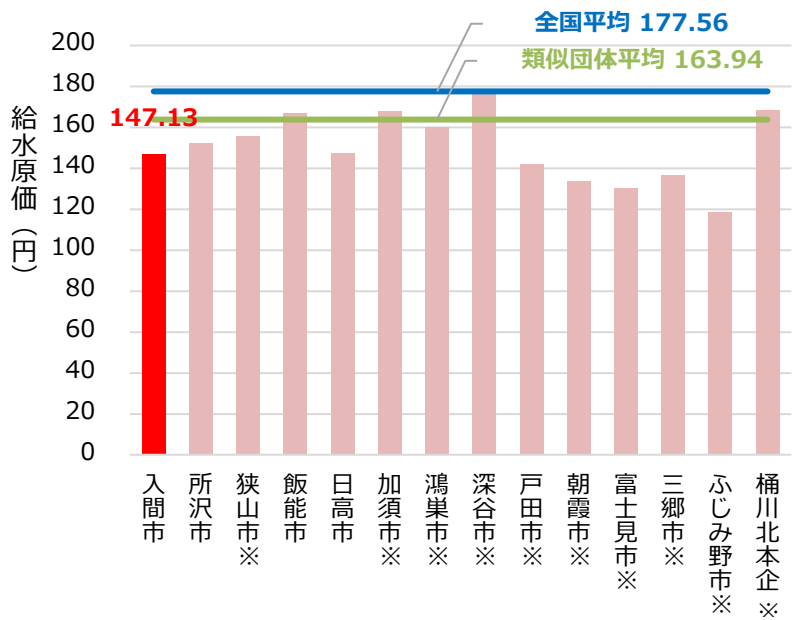
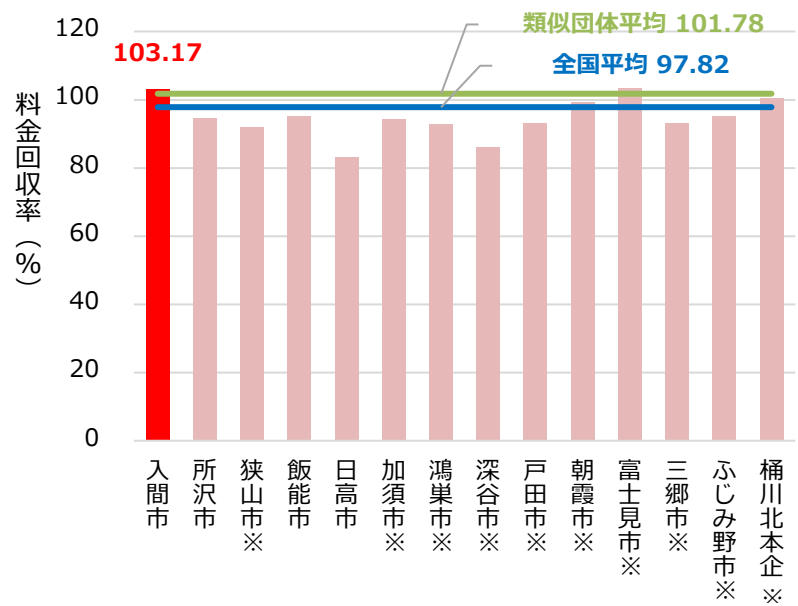
所沢市・狭山市・入間市・飯能市・日高市

※類似団体

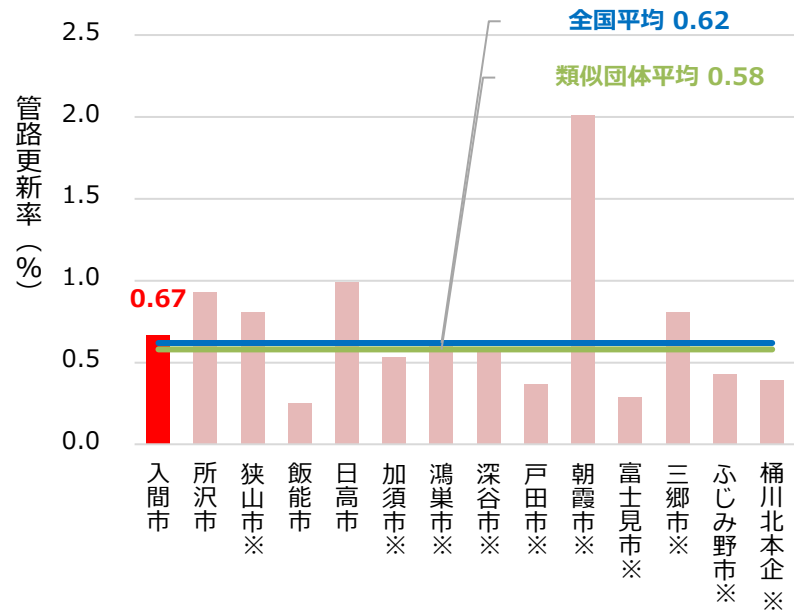
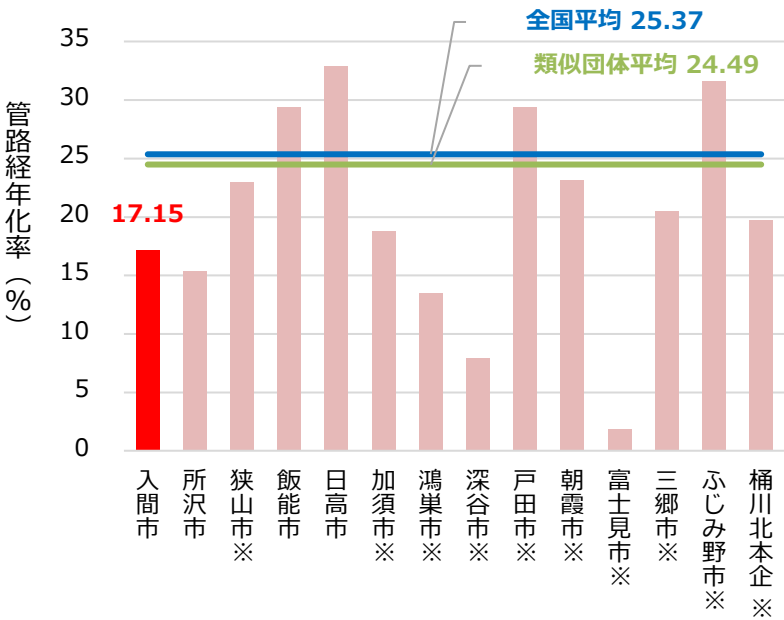
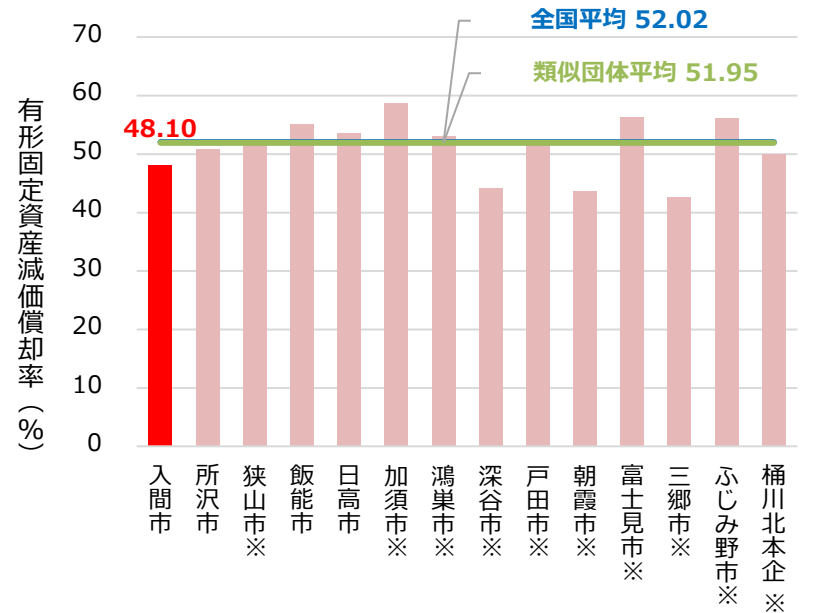




※類似団体



※類似団体



指標	指標の見方	内容	評価
経常収支比率（％）	大きい方が良い	100%を超えており、黒字で経営。	😊
累積欠損金比率（％）	小さい方が良い	欠損金は生じていないため、健全な経営状況にある。	😊
流動比率（％）	大きい方が良い	他都市と比較して、平均水準並みの現金等を有している。	😐
企業債残高対事業規模比率（％）	小さい方が良い	他都市と比較して、低い水準である。	😊
料金回収率（％）	大きい方が良い	100%以上であり、独立採算による経営を行っている。	😊
給水原価（円）	小さい方が良い	他都市と比較して、原価は低廉である。	😊
施設利用率（％）	大きい方が良い	他都市と比較して高水準であり、施設を有効利用している。	😊
有収率（％）	大きい方が良い	他都市と比較して高水準であり、漏水が少ない。	😊
有形固定資産減価償却率（％）	小さい方が良い	他都市と比較して、資産の老朽度の割合は小さい。	😊
管路経年率（％）	小さい方が良い	他都市と比較して、管路の老朽度の割合は小さい。	😊
管路更新率（％）	大きい方が良い	他都市と比較して、平均並みに老朽化した管路への対応を実施している。	😐

😊 : 全国平均、類似団体平均より優れる

😐 : 全国平均、類似団体平均の中間

😞 : 全国平均、類似団体平均より劣る

## 入間市水道事業の状況

現在は経営的に大きな問題はない



## 今後の課題

- 令和8年度からの受水費の値上げ
- 水質管理体制の強化
- 施設・設備等の更新費用の確保
- 管路の耐震化の推進と人材の確保
- 人口減少に左右されない料金水準や体系